

## 的外れの時事通信の現状認識

7月2日、時事通信は、いつものように、サンパウロ発の通信で、「南米ベネズエラの中央選挙に当たる全国選挙評議会（CNE）は1日、国会議員選挙を12月6日に実施すると発表した。野党は、反米左派マドゥーロ大統領に牛耳られたCNEの下での選挙が公正に行われる保証はないと批判、ボイコットの構えを見せている。マドゥーロ氏と敵対して『暫定大統領』を名乗るグアイドー国会議長は『誰もこの偽りの選挙を承認しない』と強く反発した」と配信しました。この配信は、いくつかの新聞によって無批判にそのまま報道されました。

しかし、この認識は、ベネズエラの最近の政治状況からすれば、かなりはずれたものです。事実は、野党は、一枚岩ではなく、グアイドーの「自己大統領宣言」の一年半に、また2014年2月からの大衆意志党のレオポルド・ロペスの暴力過激派路線に、厳しい批判が続出しており、国会議員選挙に参加する野党、国会議員選挙の必要性を主張する有力者も出ています。

昨年9月に国民対話テーブルにおいて、与党は、一部の野党（社会主義運動党 MAS、革新進歩党 AP、ベネズエラ解決党、変革党、赤旗党）と、①与党が従来の国会に参加する、②全国選挙評議会（CNE）の新たな人員及び投票プロセスに付随すべき選挙保障に取り組むことを合意しました。①はすでに昨年中に達成され、②については、本年6月にさらに新たな野党、新時代党、民主行動党（AD）の一部も加わり、選挙評議会（CNE）の理事の選出について合意しました。

すでに、今年の一月の従来の国会の新指導部には、野党の国会議長ルイス・パルラ（正義第一党）、第一副議長フランクリン・ドゥアルテ（キリスト教民主党）、第二副議長ホセ・グレゴリオ・ノリエガ（大衆意志党）、書記ネガル・モラーレス（民主行動党）、副書記アレクシス・ビベネス（大衆意志党）が選出されており、主要野党 G-4（大衆意志党、正義第一党、民主行動党、新時代党）の中が一枚岩でないことが露呈していました。

しかし、今回、新 CNE の理事の選出に当たり、G-4 の内部の亀裂も表面にでました。最大の過激派、大衆意志党では、ロスミット・マンティージャ、アナ・カリーナ・ガルシア、ガビ・アレヤーノの3議員が、与党との対話の必要性を主張して離党。正義第一党では、ルイス・パルラ国会議長、ホセ・ブリト議員が、国会議員選挙の必要性から、フリオ・ボルヘス（グアイドーの協力者）、エンリケ・カプリーレス（元ミランダ県知事）と袂を分かち、カプリーレスもグアイドー路線を批判し、国会議員選挙の必要性を認めるものの、コロナ感染が収束していない状況での選挙の実施に反対しています。

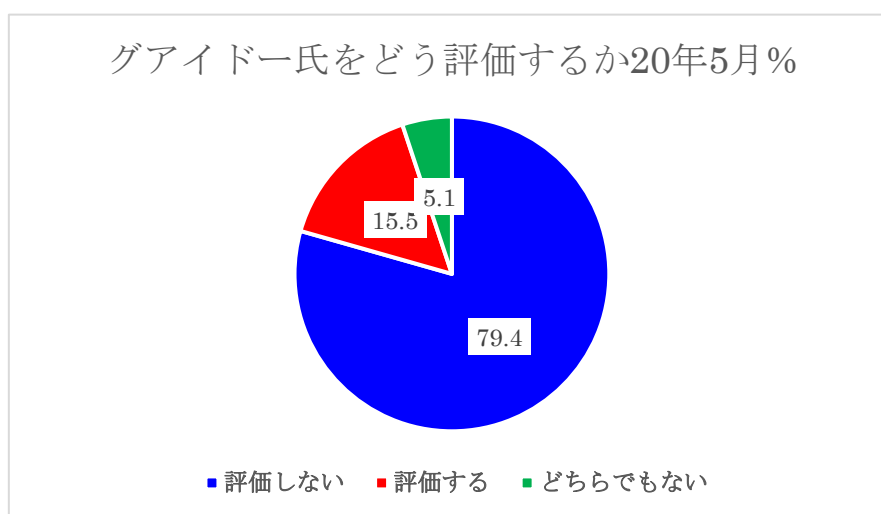
民主行動党内では、党書記長、ベルナベ・グティエレスが、国会議員選挙への参加を主張し、党内重鎮のラモス・アジュップと対立し、選挙への参加を表明しています。新時代党内では、スターリン・ゴンサーレス議員が、グアイドー一派の亡命政権樹立政策は誤りであり、国会議員選挙を主張し、現指導部を批判しています。

本年、与党と一部の野党との国民対話テーブルは拡大して、6月22日には前に述べたように、野党からは、ティモテオ・サンブラーノ（市民変革党）、クラウディオ・フェルミン（ベネズエラのための解結党）、ハビエル・ベルトウシ（変革希望党）、ラファエル・マリ（見主行動党）、ルイス・ロメーロ（進歩的前進党）、フェリーペ・ムヒカ（社会主義運動）、セグンド・メレンデス（社会主義運動）が参加し、選挙評議会（CNE）の理事の選出について合意しました。

6月26日ウォール・ストリート・ジャーナル紙は、5月3日のマドゥーロ大統領誘拐未遂作戦、ギデオンの作戦は、在カラカスのスペイン大使館に亡命しているレオポルド・ロペスがグアイドーなどに指示を与え行ったものであることを暴露し、卑劣な行動に批判が集中しました。こうしたこともあり、大衆意志党のレオポルド・ロペス党首、グアイドー国会議員の暴力的、過激派路線は、各方面から批判されています。

ベネズエラの世論調査会社 Datin Corp のヘスス・セギーアス社長は、6月30日「2014年2月から大衆意志党のレオポルド・ロペスが野党を牛耳るようになり、野党は失敗を重ねていったという長文の論文を発表。7月1日正義第一党のカプリーレスは、「反政府活動は一人の人間（レオポルド・ロペスのこと）に乗っ取られ、20年にわたる反政府活動において、現在は最低の時期である。反政府運動を再建しなければならない」と述べました。6月28日サバテロ元スペイン首相は、「公的には宣言していないが、グアイドーの大統領宣言から1年半が経過したが、結果は否定的であり、グアイドーの承認を後悔している国がいくつもある」と述べています。

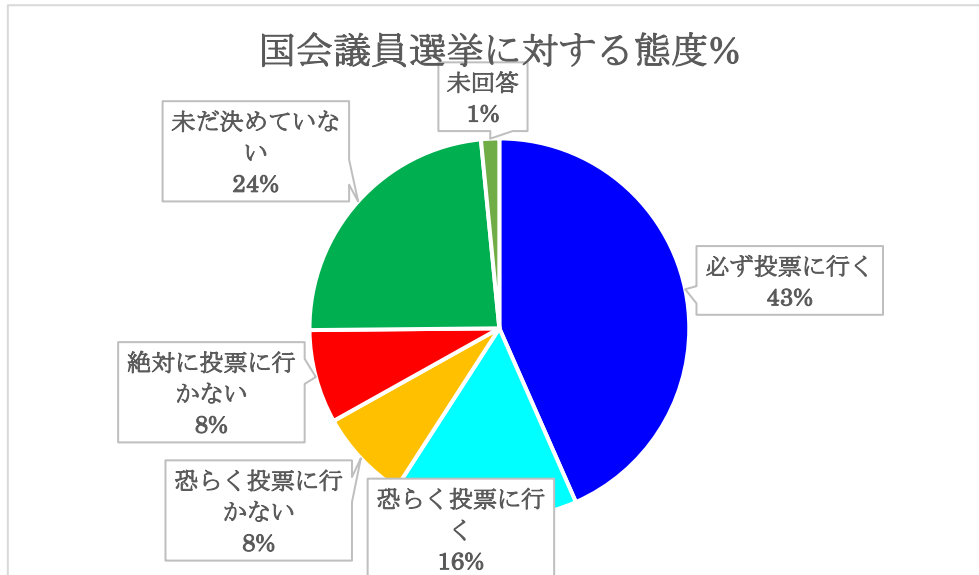
インターナショナル・コンサルティング・サービス（ICS）の5月17日～6月2日の世論調査は、グアイドー国会議員が、国内でわずか15.5%の支持しか受けていないことを示しています。



出所：ICS Tips 18-06-2020 から筆者作成

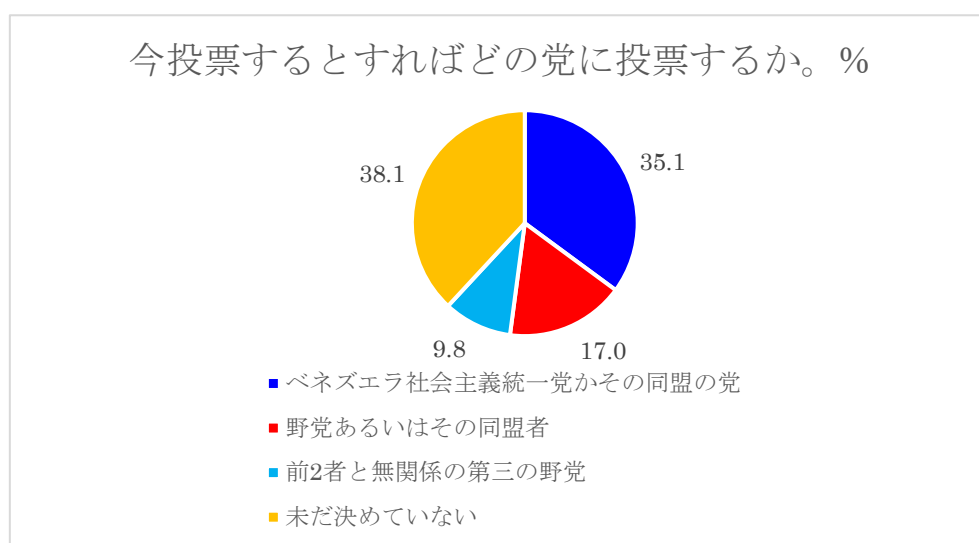
6月28日、チャベス派から転向し、コロンビアに亡命してマドゥーロ政権を厳しく批判

してきたルイサ・オルテガ元検事総長は、「反対派が選挙を忌避したのは誤りであった。野党は、次期の国会議員選挙に参加すべきだ」と述べました。国民の大多数が、国会議員選挙を行い、言論で政策の是非を争い、経済の安定と、パンデミックの収束を望んでいることは、前述の ICS の世論調査でも、次のように示されています。



つまり、60%近い人々が現時点で投票に行く意向を示しており、未だ決めていない人々の一部も加えると 70%程度の人びとが、次期の国会議員選挙で投票する意向を示しています。この市民の意向を、G-4 の一部の選挙否定派も無視できなくなることでしょう。

そして、現在、与野党どちらが国民に支持されているかという点では、与党勢力が 35.1%、野党勢力が 17.0%となっており、グアイドーなどの過激派は、世論の動向を知っており、国会議員選挙を避けようとしているものと思われます。



しかし、一方で、保守派の中央科学技術大学のルイス・エドゥアルド・マルテネス学長は、「もし 2015 年の国会議員選挙と同じパターンで投票されるなら、野党は、277 議席中 180 議席以上獲得し、勝利するであろう。野党は、誤りを正し、団結すれば勝利は可能である」

と予測し、選挙戦をたたかうことを主張しています。

7月3日、CNE、国会議員選挙の日程を次のように発表しています。

7月13～7月26日立候補者登録

8月10～19日立候補者紹介

10月11日試験投票

11月21日～12月5日選挙活動

12月6日投票

前回と同じ87選挙区、議席は277議席（従来は167議席）

5月29日、米国のポンペオ国務長官は、マドゥーロ政権が、国会議員選挙を実施するのは、グアイドーの国会議長職を失わせる目的からであるとの国務省声明を発表しました。闘う前から選挙の敗北を予測するのも奇妙ですが、3月31日には、ポンペオ国務長官は、ベネズエラの政争終結のための移行政権の樹立に際して、マドゥーロ、グアイドー抜きを提案しています。さらに6月22日トランプ大統領は、アクシオス（Axios）とのインタビューで、グアイドーをベネズエラの正当な指導者として認めた彼の決定について別な考えをもっていたことを述べています。グアイドーの役割は、米国の都合により、ころころ変わるので

(2020年7月5日 新藤通弘)